

Tsunaguu

[つなぐ]



FEBRUARY 2026

土屋よういち後援会報 vol.04

[討議資料]

UEDA CITY REBRANDING PROJECT

※各イラストは
イメージです。

青空と太陽のまち 上田

輝き進化する 上田再構築

ver.3.0

性別や年齢、国籍などに関わらず、誰もが自分らしく生きて、幸せを感じられる新しい時代、新しい社会の創出に向けて、『6つの視点』を共有し、分野横断的な連携や効果ある施策を実行し、複層的な課題の解決に繋げるとともに、行財政改革を熟慮断行し、効果的・効率的な行政運営を実現し、魅力あふれるまちづくりを推進します。さらに、二次救急医療体制の充実(上田スタイル)と救急救命センターの設置にも尽力します。



01

上田市の強みをいかし、
市民参加・市民協働・公民連携のまちづくり



02

人生100年時代を支え、
寄り添い、尊厳を守る地域共生のまちづくり



03

「こども まんなか」の、
子育て・子育て支援と学びのまちづくり



04

ジェンダーギャップ解消の視点を
大切にした、公正で選ばれるまちづくり



05

SDG'sを推進し、
未来へ持続可能なまちづくり



06

最先端技術を正しく、
有効に活用したまちづくり

商業 工業
上田市の未来を支える産業
農業 観光

公民連携

民間活力と行政の
タッグを前提に考える
未来構想!!

上田市の未来に夢を描き、一緒に考え、 建設的に議論していきましょう!!

様々な提案（構想試案）を考えています。

実現性も含め、みなさまの声、ご意見、たくさんのアイデアをお聞かせください。

SUN to UEDA

『太陽とともに輝きつづける^{まち}蚕都 上田』

輝き進化する上田再構築 ver.3.0 [上田リブランディングプロジェクト構想(試案)]

1. はじめに

・・・上田市のこれからを、 市民とともにつくる

上田市は、千曲川と山々に抱かれた美しい自然、温泉郷、歴史ある城下町、そしてものづくりと学びの文化を併せ持つまちです。

しかし今、少子高齢化、人口減少、地域経済の縮小、医療や福祉の不安、若者流出といった全国共通の課題が、確実にこのまちにも影を落としています。けれど私たちは、上田市にはまだ大きな可能性があると思っています。

上田市には、**人の心身を癒す自然と温泉、医療を支える基盤、若者が挑戦できる余白、そして人と人がつながる温かさ**があります。

本プロジェクト SUN to UEDA『太陽とともに輝きつづける蚕都(まち)上田』は、上田市をもう一度、**誰もが安心して生き、挑戦でき、誇れるまちへ進化させるための総合リブランディング構想(試案)**です。

市民の皆さんとともに、「**上田市の次の10年、20年**」を形にするための提案として、この構想(試案)を示します。

2. プロジェクトの核心

・・・3つの柱で、 まちの未来を支える

この構想(試案)の中核は、次の3本の柱です。

1. 高齢者対策の中核

UEDA SENIOR UTOPIA
【うえだシニアユートピア】

2. 若者対策の中核

UEDA YOUTH LAB(20代中心)
【うえだユースラボ】
+ **UEDA TEEN LAB(10代中心)**
【うえだティーンラボ】

3. 医療・介護の中核

UEDA MEDICAL CONNECTION
【うえだメディカルコネクション】

これらはバラバラの施策ではなく、**一つの都市システムとして連動する「上田市の未来基盤」**です。

高齢者が安心して楽しめる。若者が居場所と仕事を持てる。市民が安心して医療を上田市で受けられる。そのすべてがつながることで、上田市は「**選ばれるまち**」に進化します。

3. 第1の柱 公民連携構想

UEDA SENIOR UTOPIA 構想(試案)

・・・高齢者が“通いたくなる”理想郷

高齢化は課題であると同時に、地域の知恵と

経験が集積するチャンスでもあります。UEDA SENIOR UTOPIA は、介護や医療の場ではなく、「**行くのが楽しみになる高齢者の遊び場**」として設計されます。

仕組み

◎ **利用者本位の高齢者複合型サービス**として、カフェ、食堂、カラオケ、ゲーム、軽スポーツ、リラクゼーション等を併設。送迎付きで、誰でも通やすい施設です。

◎ 利用や健康プログラムへの参加に応じて**地域ポイント(または施設内通貨)**を付与し、施設内や連携店舗で使える仕組みを導入します。

効果

- ◆ 外出機会の増加
- ◆ フレイル予防、認知症予防
- ◆ 家族の介護負担の軽減
- ◆ 「介護施設」ではなく「**私の居場所**」になる

4. 第2の柱 公民連携構想

UEDA YOUTH LAB 構想(試案)

+ UEDA TEEN LAB 構想(試案)

・・・若者の居場所と共創・挑戦の拠点

若者がいないまちは、未来を描けません。上田市は、若者が戻り、集い、挑戦できるまちになる必要があります。

◎ UEDA YOUTH LAB(20代～)

- ◆ まちなかの空きビルや古民家をリノベーション
- ◆ シェアオフィス、カフェ、ジム、スタジオ、パブを併設
- ◆ 起業支援、家賃補助、リノベ補助を組み合わせる

→ **若者、Uターン、クリエイター、スタートアップの集積地**

◎ UEDA TEEN LAB(10代)

- ◆ 千曲川リバーサイドの安全なエリアに設置
- ◆ 音楽、映画、スポーツ、読書、料理、交流の場
- ◆ 繁華街から距離を取り、健全で安心な環境を確保

→ **10代が「自分の居場所」を持てる公共のリビング**

この2つは連動し、**10代 → 20代 → 地元で働く・起業する**という流れを上田市の中につくります。

5. 第3の柱 公民連携構想

UEDA MEDICAL CONNECTION 構想(試案)

・・・つながる医療環境を構築し、
安心で健やかなまちづくり

上田市には、地域に根ざした信頼できる医療

機関が数多く存在しています。しかし、市民一人ひとりが「どこに、どんな医療機関があり、どのような診療が受けられるのか」を十分に把握できているとは言えず、医療機関と市民との距離は決して近いとは言えないのが現状であります。「**UEDA MEDICAL CONNECTION**」は、デジタル技術を活用し、市民と医療機関をシームレスにつなぐユニバーサルな医療情報基盤を構築することで、市民が自分に合った「**かかりつけ医**」を見つけ、安心して暮らせる環境づくりを目指すものであります。

6. 3本の柱は一つにつながる

- ◎ シニアユートピアの健康相談 → 市内の医療機関と連携
- ◎ 若者ラボで医療・福祉・観光のスタートアップが育つ
- ◎ 上田市民と市内の医療機関が、情報の接続革命で有機的につながる

さらに **医療・介護 × 福祉 × まち × 観光** を横断的につなぎます。

7. 期待される未来

市民に

- ◆ 安心して歳を重ねられる
- ◆ 子どもと若者が地元で夢を描ける
- ◆ 医療に困らない

まちに

- ◆ 雇用創出
- ◆ 空き家・空きビルの再生
- ◆ 観光(温泉ほか)による外貨獲得

8. 結び

・・・上田市で、安心して生きる

医療は、ただ治すものではありません。福祉は、支えるだけのものではありません。

『**まちは、人が輝くための舞台です。**』

SUN to UEDA『太陽とともに輝きつづける蚕都(まち)上田』は、**誰ひとり取り残さず、すべての市民に光が届くまちをつくるプロジェクト構想(試案)**です。

市民の皆さんとともに、上田市の未来を、ここからもう一度つくり上げていきましょう。

民間活力と
行政が、
協力タッグ
を組み、

夢あふれる
上田市の
輝く未来を
描こう!!



UEDA SENIOR UTOPIA

構想(試案)



公民
連携

高齢者が“通いたくなる”理想郷

高齢者が楽しめる場づくり×福祉・予防医療が!

「通うのが楽しみになる“遊びと福祉・予防医療の拠点”を!

民間活力と行政が連携して拠点を運営、エリア内で使えるポイント制度導入! 楽しく健康に過ごすために

「うえだシニアユートピア」構想 (試案)

(送迎付き高齢者複合型サービス施設)

介護認定前の元気な高齢者のための公民連携等による活動拠点づくり
飲食・娯楽・軽スポーツ・リラクゼーションスペースを併設



UEDA SENIOR UTOPIA

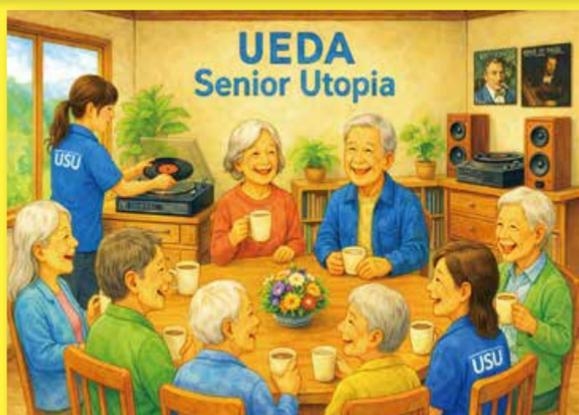


ゲーム カラオケカフェ等で割引利用が可能!!



市民の健康・地域の活性化・家族の安心につながります!

- 1 高齢者の外出機会の増加・フレイル予防・認知症予防
- 2 家族の介護負担軽減と安心感向上
- 3 『介護施設』ではなく、身近な理想郷



UEDA SENIOR UTOPIA 構想(試案)

『楽しむ～つながる～整える』
シニアのための新しい都市型コミュニティ

1. 高齢化の本当の課題

問題は「老いること」ではありません。
問題は孤立と役割喪失です。

2. UEDA SENIOR UTOPIA とは

民間活力と行政がタッグを組み、公民連携で運営する
高齢者が◎遊び◎学び◎働き◎笑い◎整うための総合拠点です。

主な機能

- ◆通所型サービス ◆カルチャー ◆カラオケ ◆ゲーム ◆カフェ
- ◆軽スポーツ ◆健康測定 ◆医療連携 ◆地域ポイント利用 他

3. 医療とつながる安心

上田市内の医療機関と連携し
◆定期チェック ◆予防医療 ◆通院支援 ◆訪問医療
を施設の機能に組み込みます。

4. 高齢者は「支えられる側」ではない

シニアは知恵と経験を持つ地域の資源です。
◆子ども支援 ◆観光案内 ◆地域活動
に参加できる設計を行います。

5. 未来へ

UEDA SENIOR UTOPIA は、「長生きしてよかった」と思える
上田市をつくるための構想(試案)です。



若者が集まる場づくり×まちなかりノベーション

歴史あるまちなかに、若者とクリエイターの“溜まり場”を!

歴史ある市街地周辺の建物や中古住宅をリノベーション!
若者やクリエイターが集まるエリア「うえだユースラボ」をつくり、
育てるプロジェクトです!

目指すのは、若者や子育て世代、専門クリエイター
などが楽しく輝く!



シェアオフィス & カフェラウンジ

フィットネス・リラクゼーション

映画・音楽 & アイリッシュパブ

クリエイティブ集団 & スタートアップ&Uターン

クリエイティブシェアハウス & プティックホテル

UEDA YOUTH LAB 構想(試案)

『働く～学ぶ～暮らす』を一つにつなぐ
若者のための都市型ライフインフラ構想(試案)

1. このまちに、若者の居場所はあるか

上田市には大学があり、企業があり、自然があり、暮らしやすさもあります。しかし多くの若者が、こんな違和感を抱えています。

- ◆ 卒業後に働く場所が見えない
- ◆ 起業や挑戦の場がない
- ◆ 都市のような刺激と交流が少ない
- ◆ 一人で抱え込んでしまう

UEDA YOUTH LAB は、「若者が上田市で挑戦し続けられる場所」をつくる構想(試案)です。

2. UEDA YOUTH LAB 構想(試案) とは

UEDA YOUTH LAB は、公民連携で計画・設置・運営する「働く・学ぶ・出会う・整える」を一体化した若者向けの都市型ラボ拠点です。

主な機能

- ◆ コワーキング ◆ シェアオフィス ◆ 起業支援
 - ◆ フリーランス拠点 ◆ 学習スペース ◆ キャリア相談
 - ◆ メンタルケア連携 ◆ カフェ ◆ ラウンジ など
- 仕事も、学びも、相談も、休憩も、すべてが一つの場所につながります。

3. なぜ今、YOUTH LAB なのか

若者は「働く場所」ではなく「成長できる環境」を求めています。

UEDA YOUTH LAB は

- ◆ 地元企業とのマッチング ◆ 副業、プロジェクト型仕事
- ◆ 大学や専門学校との連携 ◆ オンライン仕事の拠点を備え、上田市にしながら全国とつながる働き方を実現します。

4. 上田市の経済を育てるエンジンへ

若者が集まる → 仕事生まれる → 企業が育つ → 税金が増える → まちが元気になる

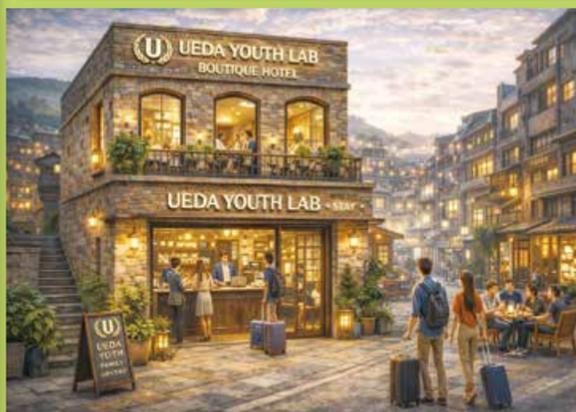
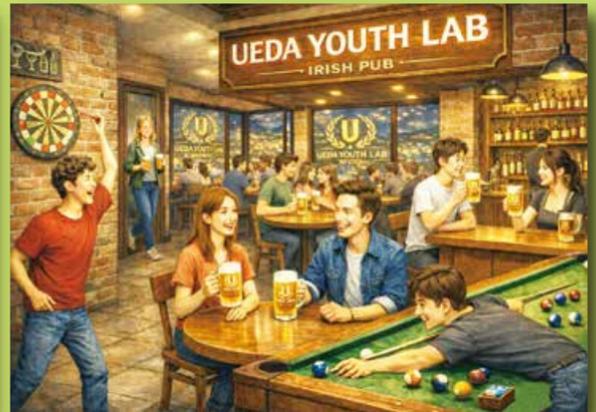
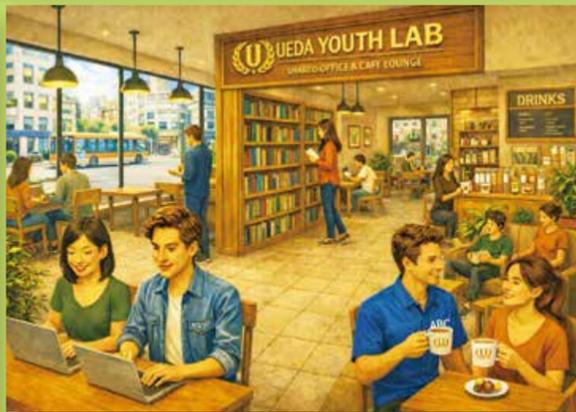
UEDA YOUTH LAB は、上田市の次世代経済の起点になります。

5. 市民とともにつくる

行政が箱をつくるのではなく、公民連携して市民・企業・大学・若者が運営に関わる共創型ラボとして育てます。

6. 未来へ

UEDA YOUTH LAB は、「若者が帰ってくる上田市」をつくります。それは同時に、「若者が出ていなくていい上田市」をつくることです。





公民
連携

UEDA TEEN LAB 構想(試案)

10代が「自分の居場所」を持てる公共のリビング

10代が集まる未来の拠点 UEDA TEEN LAB 構想(試案)

健全育成とにぎわいの千曲川リバーサイドに!



環境にやさしいエネルギー活用



資源循環型施設で発生する熱を活用!!
自然に優しくエコで持続可能な社会に!

みんな大好き! ライブラリー (BOOKS)



漫画・アニメ・ミステリー小説など
ファッション誌・音楽誌など

楽しく学ぼう! クッキング教室 (COOK)



洋食・中華・和食・スイーツにも挑戦!

千曲川リバーサイド 安心・安全な環境で健全な活動を!

アルコール・タバコのないクリーンな“溜まり場”へ。



UEDA TEEN LAB 構想(試案)

『遊ぶ～学ぶ～つながる』
中高生のための居場所と成長の拠点

1. ティーンは、居場所を失っている

授業が終わると行く場所がない。家でも学校でもない場所がない。
悩みを話せる大人がいない・・・
UEDA TEEN LAB は、ティーンが安心して「自分でいられる場所」をつくれます。

2. UEDA TEEN LAB 構想(試案) とは

UEDA TEEN LAB は、公民連携で計画・設置・運営にあたる中学生・高校生のためのまちに開かれた第三の居場所です。
機能 ・スタディールーム・音楽・カフェ・ゲーム・映像・カルチャー
・料理教室・読書・スポーツ・ジム・フィッシング 他
「やってみよう」がすぐに始められる場所です。

3. なぜ公民連携でやるのか

不登校、孤立、メンタル不調は個人の問題ではなく社会の設計の問題です。だからこそ、民間活力と行政がタッグを組み進めます。
UEDA TEEN LAB は、早期に子どもの変化を見つけ、医療・福祉・教育につなぐ予防型インフラでもあります。

4. まち全体で育てる

学校・家庭・医療・福祉・地域
UEDA TEEN LAB は、すべてをつなぐハブになります。

5. 未来へ

UEDA TEEN LAB は、子どもたちに「ここにいたい」という感覚を与えます。それが、将来このまちを支える人を育てます。



UEDA MEDICAL CONNECTION



構想(試案)

公民
連携

上田市で整え、上田市で安心して生きる

UEDA MEDICAL CONNECTION

上田メディカルコネクション構想(試案)



UEDA MEDICAL CONNECTION 構想(試案)

市民と医療機関を、デジタルでやさしくつなぐ構想(試案)

1. なぜ今、「医療と市民のつながり」が 必要なのか

上田市には総合病院、専門病院、地域の診療所、歯科医院、薬局、介護施設まで含めると、非常に多様で質の高い医療資源が市内各地に点在しています。これは地方都市として見れば、非常に恵まれた環境であると言えます。

しかし一方で、市民の多くは「自分が困ったとき、まずどこに行けばいいのかわからない」「この症状なら何科に相談すればいいのかわからない」「夜間や休日はどこに相談すればいいのかわからない」といった基本的な情報を、意外なほど持っていません。結果として、症状が軽いうちに適切な医療機関につながらず、重症化してから大きな病院に集中してしまう、いわゆる「医療の非効率」が生まれています。

この問題は、医療機関の努力不足ではなく、「市民と医療をつなぐ情報の仕組み」が時代に合っていないことが大きな要因です。現在も上田市や医師会による医療機関リストやマップは存在していますが、多くは紙を前提とした情報設計であり、残念ながらデジタル時代の市民にとって直感的で使いやすいものとは言い難いのが現実です。

2. 「かかりつけ医」を持つことの本当の価値

「かかりつけ医」とは、単に近所の病院という意味ではありません。日常の体調変化を気軽に相談でき、必要に応じて専門医や大病院につないでくれる「医療のナビゲーター」の存在です。かかりつけ医を持つことで、市民には以下のようなメリットが生まれます。

- ちょっとした不調を早期に相談できる
- 不要な検査や受診を減らせる
- 大病院への集中を防げる
- 医療費の適正化につながる
- 精神的な安心感が生まれる

これは結果的に、市民のためだけでなく、医療機関側にとっても大きなメリットになります。患者が適切に分散され、医療資源が本来の役割で活用されるようになるからです。

3. UEDA MEDICAL CONNECTION 構想(試案)とは何か

本構想の中核は、「市民と医療機関を、デジタルでやさしくつなぐ」ことです。具体的には、以下のようなWEBベースの医療情報プラットフォームを公民連携で構築します。

- 症状別検索(例:頭痛・腹痛・発熱など)
- 年齢別・目的別ガイド(子ども/高齢者/妊娠中など)
- 地図ベースで近くの医療機関を表示
- 夜間・休日対応施設の即時表示
- 診療内容・専門分野・対応可能言語の明示
- 高齢者向けの「紙ガイド」との連動

重要なのは、これは「予約システム」や「診療管理」ではなく、あくまで情報接続のインフラである点です。医療機関の業務負担を増やすのではなく、患者が適切に医療機関へ流れるための「入口」を整える仕組みです。

つまり、「患者と医療機関をつなぐ案内役」を公民連携で担うという、極めて現実的で市民本意の医療と市民をやさしくつなぐモデルです。

4. 公民連携で進める「つなぐ医療政策」

この構想の本質は、「医療制度を変えること」ではありません。「医療と市民の距離を縮めること」です。

行政が、中立的な立場で一翼を担い、

- 医療機関を公平に掲載し
- 市民に分かりやすく翻訳し
- 迷わずたどり着ける導線をつくる

これだけで、地域医療の質は確実に一段階上がります。

医療改革ではなく、医療接続改革。

それがUEDA MEDICAL CONNECTION 構想(試案)であり、地方自治体として最も現実的で、最も効果の高い医療施策です。



土屋市政2期8年の取組

安心して暮らせる上田市へ



土屋陽一市政の8年間は、「子育て」「安全・安心」「暮らしの基盤づくり」「環境と未来」を大切に、市民の声を聞きながら一歩ずつ前に進めてきた8年間でした。

子育てを応援するまちへ

令和5年から、**子どもの医療費助成を18歳まで拡大**。これまで15歳までだった対象を広げ、約3,800人の子どもたちが新たに支援を受けられるようになりました。子育て世帯の負担を軽くするため、市として約5,300万円の予算を確保し、**安心して子どもを育てられる環境づくりを前進**させました。

さらに同じ年から**出産祝金制度もスタート**。子どもの誕生を地域全体で支える仕組みを整え、若い世代が上田で暮らし続けられるまちづくりを進めています。

暮らしを守るインフラと防災

令和元年の台風19号では上田市も大きな被害を受けました。**被災した別所線は、市と地域が力を合わせて復旧を支援**し、令和3年3月に全線開通。地域の大切な交通を取り戻しました。

また、ごみ処理の将来を見据えた**資源循環型施設の整備では、説明会を重ね、市民のみなさんの理解を得ながら計画を前進**。令和7年6月には**建設地決定の基本協定を締結し、長年の最大の課題の解決に向けて大きな一歩を踏み出**しています。

地球と家計にやさしい上田市へ

環境分野では、令和6年に地域エネルギー会社「**サントエナジーうえだ**」を設立。再生可能エネルギーを地域で活かす仕組みづくりを進めています。

令和7年には、**省エネ家電の買い替え補助や公共施設のLED化(約4億円)を実施**。電気代の負担を減らしながら、**CO₂削減にもつなげる、暮らしにやさしい取り組み**を広げています。

水道事業は“対話と合意”を大切に

将来も安全で安定した水道を守るため、近隣自治体とともに水道事業の広域連携について検討を進めてきました。令和7年には基本計画の方向性に合意しましたが、広域化を決定したのではなく、この問題にはさまざまなご意見があることも十分に理解しています。

だからこそ、**上田市は決して急ぎすぎず、どんな市民の声にも耳を傾け、丁寧な説明と対話を重ね、納得と合意を大切にしながら、市民にとっての最適なかたちを見つけていく——その姿勢を貫いていきます。**

市民とともにこの8年間、**派手さよりも確かな歩み**を大切にしてきました。

これからも、**子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らせる上田をつくること**。それが土屋市政の変わらない目標です。

常に**現場に足を運び、市民の声を真ん中に**、「暮らしに寄り添う市政」を進めていきます。

そして、**市民一人ひとりに陽があたり、新時代を先駆ける上田市**を、ともに築いていきましょう。

2期8年(2018~2025)の取組実績

2018年

- 3月25日 上田市長選挙で初当選(得票29,131票)。
- 4月9日 上田市長就任(1期目スタート)。
同日、資源循環型施設の建設に向けて、地元役員等と面会。
- 選挙公約「上田再構築」の実現に向け、市民総参加のまちづくりによる市政を始動。

2019年

- 台風19号(10月)で被害発生後、広域で復旧と防災強化に取り組む。
- 災害対応に注力し、防災・減災関連の体制整備を進める。

2020年

- 新型コロナウイルス感染症対策を本格化(対策本部設置・学校休業等対応)。
- 台風19号復旧と合わせ、地域の生活基盤支援を継続。

2021年

- 3月28日 上田電鉄別所線・千曲川橋梁の復旧完了、全線開通。
- 上田市総合防災情報システム運用開始(7月)。
- 防災強化として県道内村橋架替工事完了(11月)。

2022年

- 3月27日 市長選で再選(得票36,115票/2期目、4月9日~)。
- 政策の柱を「住民と対話する市政運営」に据え、行財政改革・生活支援を推進。
- 持続可能なまちづくり、デジタル化、スマートシティ化などを始動。

2023年

- 4月1日 子ども医療費助成の対象を18歳年度末まで拡大。
- 同年度 出産祝金制度を開始し、子育て世帯の経済的負担を軽減。
- 教育環境改善(中学校等の施設整備・改築へ着手)。
- 子ども・若者支援の仕組みづくりを推進。

2024年

- 4月「し尿前処理下水道投入施設」建設工事に着手し、ごみ処理・環境改善へ向けた実施設計段階へ進展。
- 4月 上田長野地域水道事業広域化協議会を設立し、将来の水道事業安定化の基盤検討を開始。
- 7月 地域エネルギー会社「サントエナジーうえだ」設立(再エネ・地産地消の仕組みづくり)。
- 市民との対話強化へ「よ~ちゃんの市長対話室」など対話型施策を継続実施。

2025年

- 6月 資源循環型施設(ごみ処理)について、広域連合・市・地元関係団体で「建設地決定に関する基本協定」を締結し前進。
- 7月 認知症と共に生きるまち・うえだ希望都市宣言。
- 11月 水道広域化の基本計画案について、関係自治体で合意(今後、長期的かつ多面的、根本的な視点から水道事業のあり方を丁寧に検討し、上田市民にとっての最適解を選択)。
- 市民ICT推進センター「iプラザうえだ」開館(11月)。
- 市長表彰制度等で、地域のスポーツ・文化活動を公的に応援(表彰式出席など)。
- 第三次上田市総合計画の策定 ※令和7年度の詳細については次ページをご覧ください。



… 令和7年度に実施した主な施策・取組 …

(2025年4月～)

1. 資源循環型施設建設に向けた取組

上田地域広域連合の資源循環型施設建設について、地元関係団体と広域連合及び市により「資源循環型施設の建設地決定に関する基本協定」を締結しました。この協定を機に、次なる段階へと歩みを進め、施設建設並びに地域のまちづくりに向けた準備を進めています。(令和7年6月)

2. 非核平和都市宣言15周年記念事業

令和7年は戦後80年、そして、上田市が非核平和都市宣言を行ってから15周年の節目の年を迎えたことから、市においても、次の世代が戦争体験者の想いを未来に繋いでいくための取組を実施しました。

■ 関連事業

- 市内中学生と広島市への分火訪問及び平和学習の実施(令和7年7月)
- 「平和の灯モニュメント」の設置(令和7年8月)
- 上田市平和記念事業～音楽と映像がつむぐ平和の願い～の開催(令和7年12月)

3. 災害時における連携協定の締結

災害時の被災者支援や要配慮者受入れ、物資・機材供給などに関する災害時応援協定を様々な事業者等と締結し、大規模災害発生に備え、災害対応の体制強化に向けた取組を進めています。

4. 橋復元を含めた上田城跡整備事業の実施

市民が愛着と誇りを持ち、よりどころとなる上田城を江戸時代の姿に復元整備していくために、県や市民の会、文化団体等の関係団体と連携を図りながら、全力で取り組んでいます。(令和7年6月)

■ 武者溜りの復元に向けた取組

上田城跡の武者溜りの復元整備に向けた旧市民会館解体工事に着手

■ 懸賞金制度による資料の募集

上田城の櫓・櫓門の復元に向けた懸賞金制度を設け、櫓などの「古写真」、「設計図」、「古文書」などの情報を広く募集しています。

- 懸賞金の総額：500万円
- 募集期間：令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

■ 機運醸成や普及啓発事業の実施

市内外の多くの人に上田城の魅力や歴史的な価値を知ってもらうため、市民の会等の関係団体と連携して各種事業に取り組んでいます。

- 上田城夜間内覧会：令和7年7月5日
- 上田城と城下町の謎を追う、まち歩きツアー

：令和7年9月27日

- 上田城トークショー：令和7年11月8日、9日
- 上田城を巡るツアー：令和7年11月9日

5. 認知症とともに生きるまち・うえだ希望都市宣言(令和7年7月)

「認知症とともに生きるまち・うえだ希望都市」を宣言し、認知症を誰もが自分ごととしてとらえ、互いを尊重し、支え合い、安心して暮らせるまちの実現を目指して、取組を進めています。

■ 関連事業

- 上田城南・西櫓をオレンジとブルーの2色でライトアップ
：令和7年9月18日から9月27日まで
- 認知症啓発イベント：令和7年9月28日

6. 市民 ICT 推進センター「i プラザうえだ」の開館(令和7年11月)

令和7年8月に閉館した「マルチメディア情報センター」に代わり、市民 ICT 推進センターとして、同年11月に「i プラザうえだ」(愛称)を開館しました。

子どもからシニアまで幅広い世代の皆さまが ICT を学べる場として、パソコン研修室や3Dプリンターなどを備えたデジタル工房を設置し、ICT 活用の拠り所となるよう運営に努めてまいります。

今後も、誰もが ICT に親しみ、学び、活用できる環境づくりを進めていきます。

7. 第三次上田市総合計画の策定

令和8年4月からの新たなまちづくりの指針として「第三次上田市総合計画」を策定しました。

時代の変化を受け止め、地域の特性を生かし、地域の実情に即した取り組みを着実に推進することで、市民一人ひとりが幸せを実感し、安全・安心でいつまでも住み続けたいと思える上田市の実現を目指します。

■ 審議会経過

- 上田市総合計画審議会(全体会：6回、部会：4回)
- 令和7年8月7日、上田市総合計画審議会から最終答申

8. 水道事業の広域化の検討

令和6年4月から、上田市、長野市、千曲市、坂城町及び長野県企業局で構成する「上田長野地域水道事業広域化協議会」において協議を

重ね、令和7年11月に、組織体制や財政運営などの方向性をまとめ、今後の検討を進める上で指針とする基本計画が合意に至り、調査をしています。

このことは広域化を決定したのではなく、今後は、県の関与、負担金割合、二重化事業の規模・必要性などの重要協議が必要です。持続可能な水道事業のあり方を丁寧に検討していきます。

9. その他の主な取組

- 1 キリングroupとの人事交流の実施(通年)
- 2 上田市部活動地域展開推進計画の策定(令和7年4月)
- 3 省エネ家電買換え支援補助金制度の創設(令和7年4月)
- 4 丸子かわまち公園の供用開始(令和7年4月)
- 5 上田古戦場公園新テニスコートの供用開始(令和7年4月)
- 6 賑わいの創出に向けた社会実証実験の実施(令和7年5月)
- 7 あいそめの湯、塩田地域自治センターの照明LED化に着手(令和7年7月)
- 8 美ヶ原高原観光バス運行事業の実施(令和7年7月)
- 9 「市民力」を生かしたまちづくりに向け、市民と意見交換等を行う「サテライト市長室」を6回実施。(令和7年8・9・10月)
- 10 新生上田市誕生20周年記念事業の開始(令和7年8月)
- 11 上田市内科・小児科初期救急センターの移転(令和7年8月)
- 12 J-クレジット制度の導入に向けたプロジェクト登録(令和7年8月)
- 13 小中学校における防災給食の実施(令和7年9月)
- 14 スイス連邦ダボス 姉妹都市提携 50 周年記念事業 真田地域小中学校スイス特別企画給食の実施(令和7年9月)
- 15 上田市・青木村地域公共交通利便増進実施計画の国土交通大臣認定(令和7年9月)
- 16 鳥獣対策としてスマートフォンを活用した捕獲確認アプリの導入(令和7年10月)
- 17 働く世代の健康増進に関する地元企業との連携事業 女性の健康課題実践対策ゼミの開催(令和7年10月)
- 18 産業ミライフェス in UEDA 2025 の開催(令和7年10月)
- 19 こども発達教育総合支援センターの開設(令和7年11月)
- 20 小中学校こども議会～市内4小中学校から届ける提言～の開催(令和7年12月)
- 21 上田市道路損傷通報システムの運用開始(令和7年12月)
- 22 下半週地区への企業誘致に向け、(株)竹内製作所と協定を締結(令和8年1月)
- 23 令和8年4月から市内の小中学校で給食を無償化する方針を明示(令和8年1月)



上田市行政チャンネル

上田市の行政情報、イベント、歴史、文化、芸術、スポーツなど幅広く情報をお伝えします。



土屋よういち公式 WEB サイト

<http://yochan41.com>



ご挨拶

上田再構築プラン ver2.0 を公的に掲げスタートした土屋市政も2期目の最終盤を迎えました。土屋市長は常に市民の皆様の安全と安心・生命を守る事を最優先に考え、まちづくりに日夜、努めております。ごみ処理事業や水道事業等市民の生活に直結する重要課題にも、全力で取り組んでまいりました。市民の皆様のご理解とご協力に対し改めて御礼申し上げます。今号は、上田市の未来に向けたまちづくりにおける構想提案と、これまで8年間の取組、今年度の取組の詳細をまとめた後援会報をお届けいたします。



後援会会長
森 浩二
(上田病院理事長)

土屋陽一後援会
(新陽会)事務局

※Instagram、
フェイスブックも
ご覧ください!!



土屋よういち
Personalアカウント



土屋よういち
Personalページ



土屋よういち「後援会」
Facebookページ

